

ドナルド・トランプ大統領の一举一動は、彼がホストをしていたテレビ番組「アプレンティス（見習い）」を想起させる。この番組は、一般応募者から選ばれた16人が実際に彼の経営する会社に見習いとして雇われ、各種課題に挑戦していくリアリティショーである。課題ごとに低調なパフォーマンスを見せた者が1人ずつふるい落とされていき、最後まで勝ち抜いた1人が社員として正式に採用されるのだが、脱落者に対して毎回トランプ氏が言い放つ「You are fired!

## トランプ政権と地球温暖化政策

策に対し、番組さながらのireが止まらない。私の専門分野である環境政策も多分に漏れず、オバマ政権下の環境規制を今後撤廃すると公約している。中でも、二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）排出削減の中核を担うClean Power Planが廃止されることになる。地球温暖化防止に向けた積極姿勢を表明したばかりの国策が再び大きく後退する可能性が極めて高い。

このアメリカ温暖化クライシスは、日本にとって対岸の火事ではすまない。アメリカに限らず世界のどこかで排出されたCO<sub>2</sub>が原因となる温暖化は、地球全体に影響を及ぼすからだ。海面水位の上昇や異常気象の増加などが世界的に甚大な被害をもたらすことは今や周知の事実となっている。

アメリカ国内への影響も然りだ。トランプ氏が公約を実行したならば、国内だけでなく世界中から非難の声が上がるであろう。

経済的にも政治的にも芳しいとはいえないこの公約は、ついに共和党の重鎮議員や著名な経済学者たちをも動かした。つい先日、2月8日に温暖化対策に関する画期的な提案が彼らからホワイトハウスに提出され

た。「炭素税」である。政府の過度な介入や高い税負担を是としない共和党の身内から、国民を搾取しかねない新しい税の提案がなされることは前代未聞とも思える。トランプ氏自身も以前、炭素税に対する否定的意見を表明している。しかし、今回提案された税は従来のもとは異なる。

炭素税とは炭素を含有する製品に課される税のことだが、そこから得た税収をすべて国民に現金還付するというのだ。また、この仕組みは、現行の規制に比べてCO<sub>2</sub>の排出をより効率的に削減し、かつ長期的な技術革新を促すことが理論的に可能である。つまり、国民の支持が得やすいうえに、共和党の理念を損ねることもなく、環境と経済どちらに対してもより良い影響を及ぼすことができるのだ。

この提案には、他にも工夫を凝らした内容や議論が必要な懸念事項も含まれているが、それらについてはまた次の機会に取り上げたい。

# 炭素税は採用“されるのか

（お前はクビだ）」の決め台詞は、強烈な印象を当時残した。

大統領となった現在も、アメリカの政治慣行や現政



名古屋市立大学大学院  
経済学研究科准教授

内田 真輔

とところで、アプレンティスの勝者は「You are hired」（お前は採用だ）」とトランプ氏から高らかに告げられる。果たして、今回の提案にはどちらの決め台詞が飛び出すか見物である。ただし、これはショーではない。地球上の生物すべての命運がかかっているといっても過言ではないこの提案を、大統領にはせひともhireしてもらいたいものだ。

うちだ しんすけ 資源経済学。メリーランド大学Ph.D。1978年生まれ。

